

かほく市
宇氣ボウマワリ遺跡

2019

石川県教育委員会
(公財)石川県埋蔵文化財センター

うけ 宇氣ボウマワリ遺跡

2019

石川県教育委員会
(公財)石川県埋蔵文化財センター

例　言

- 1 本書は宇気ボウマワリ遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は石川県かほく市宇氣地内である。
- 3 調査原因は地方道改築事業(一)黒川横山線であり、同事業を所管する石川県県央土木総合事務所(石川県土木部道路建設課)が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は公益財團法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成27(2015)~30(2018)年度に実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。
- 5 調査にかかる費用は、石川県土木部道路建設課が負担した。
- 6 現地調査は平成27年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者は下記のとおりである。

期　間	平成27年7月23日～平成27年11月5日
面　積	1.050m ²
担　当	調査部県関係調査グループ
担当者	熊谷葉月(主幹)、瀧野勝利(専門員)
- 7 出土品整理は平成28年度に実施し、調査部特定事業関係調査グループが担当した。
- 8 報告書の作成は平成29年度に、編集・刊行は平成30年度に実施し、調査部県関係調査グループが担当した。執筆・編集は熊谷葉月(主幹)が行った。遺物写真撮影は池田拓が行った。
- 9 調査には下記の機関の協力を得た。
石川県県央土木部道路建設課、石川県県央土木総合事務所、かほく市教育委員会
- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - (1) 方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標VII系(世界測地系：測地成果2000)に準拠した。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、T.P.(東京湾平均海面標高)による。
 - (3) 土層記号の表記は農林水産省水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』による。
 - (4) 出土遺物番号は挿図、観察表、写真で対応する。なお、実測時の遺物番号との対応については、出土遺物観察表に記載している。
 - (5) 遺物実測図については、須恵器は断面黒塗り、その他は白抜きとし、弥生土器・土師器の赤彩処理は薄い網掛け、内黒処理は濃い網掛けでその範囲を示した。
 - (6) 遺構の名称は、下記の略記号に番号(算用数字)を付し表記した。
SA：柵　SB：根立柱建物　SD：溝　SK：土坑　P：柱穴・小穴　SX：その他(不明確遺構等)

目 次

第1章 調査の経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第3節 整理等作業の経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 遺構と遺物	7
第1節 概要	7
第2節 遺構と遺物	7
第3節 総括	36

挿図目次

第1図 調査区周辺図(S=1/5,000)	3	第16図 C区SA 1 (S=1/60)	20
第2図 調査区配置図(S=1/1,000)	3	第17図 C区SB 4 (S=1/60, 1/40)	21
第3図 遺跡の位置.....	4	第18図 C区SB 5 (S=1/60)	22
第4図 周辺遺跡分布図(S=1/250,000)	6	第19図 C区SB 6・7 (S=1/60)	23
第5図 全体平面図①(S=1/200)	9	第20図 B区SB 8 (S=1/60, 1/40)	24
第6図 全体平面図②(S=1/200)	10	第21図 B・C区溝(S=1/100, 1/40)	25
第7図 A区SI 1 (S=1/60, 1/40)	11	第22図 B区SK01 (S=1/60)	26
第8図 B区SI 2 (S=1/80, 1/40)	12	第23図 B区土坑(S=1/60)	27
第9図 B区SI 3 (S=1/80, 1/40)	13	第24図 出土遺物実測図1 (S=1/3)	28
第10図 B区SB 1 (S=1/60)	14	第25図 出土遺物実測図2 (S=1/3)	29
第11図 B区SB 1 柱穴(S=1/40)	15	第26図 出土遺物実測図3 (S=1/3)	30
第12図 B区SB 2 P11 (S=1/60, 1/40, 1/20)	16	第27図 出土遺物実測図4 (S=1/3)	31
第13図 B区SB 3 (S=1/60)	17	第28図 出土遺物実測図5 (S=1/3)	32
第14図 B区SB 3 柱穴(S=1/40)	18	第29図 出土遺物実測図6 (S=1/3)	33
第15図 C区SA 2・3、SD14・15(S=1/60)	19	第30図 造構変遷図(S=1/600)	36

表目次

第1表 遺物観察表①

第2表 遺物観察表②

図版目次

図版1 調査区全景(モザイク合成)	B区 SK 1(東から)
図版2 B区 全景(上が南)	B区 SK 1 遺物出土状況(東から)
C区 全景(上が南)	B区 SK 1 焼土検出状況(南から)
図版3 B区 遠景(西から)	B区 挖削終了(南東から)
C区 遠景(東から)	B区 SK 1(西から)
図版4 A区 SI 1(東から)	B区 SK 1(南から)
A区 SI 1 遺物出土状況	B区 SK 1 焼土断ち割り状況(西から)
A区 SI 1 完掘状況(南から)	図版8 B区 SK 2 断面(東から)
A区 SI 1 遺物出土状況(東北から)	B区 SK 2 完掘状況(東から)
A区 SI 1 内貯穴完掘状況(東から)	B区 SK 4 断面(北から)
図版5 B区 SB 1(南西から)	B区 SK 4 完掘状況(北から)
B区 SB 4(南西から)	B区 SK 2 炭化物層(東から)
図版6 B区 SI 2(東南から)	B区 SK 3 断面(南西から)
B区 SD 8(SI 2)(北西から)	B区 SK 4 焼土検出状況(北から)
B区 SD 8(SI 2)(南から)	B区 SK 5 断面(東から)
B区 SD 8(SI 2)(北西から)	図版9 B区 SK 6(東から)
B区 SI 2 作業状況(南から)	B区 SK 8(南から)
B区 挖削終了(南西から)	B区 SX 1 北アゼ(北から)

B区	SX 1 (北から)	B区	P318(SB1 東から)
B区	SK 7 (東から)	C区	SD14(南から)
B区	SK 8 (南から)	C区	SD19(南から)
B区	SX 1 南アゼ(北から)	C区	SB 8 (北から)
B区	SX 3 (西から)	図版12	C区 挖削終了(南から)
図版10	B区 SD 3 (西から)	C区	SD13(北から)
	B区 SD 4 (西から)	C区	SD14(北から)
	B区 SD 6・7 (東から)	C区	P567(北から)
	B区 P136(SI 3 柱穴 北から)	C区	SD13(北から)
	B区 SD10(西から)	C区	SD15(北から)
	B区 SD 4・P333(北西から)	C区	SD19(南から)
	B区 P19(SI 3 柱穴 北から)	図版13	出土遺物 1
	B区 P21焼土断剝(SI 3 炉 東から)	図版14	出土遺物 2
図版11	B区 P11遺物出土状況(南から)	図版15	出土遺物 3
	B区 P406(SB 1 西から)	図版16	出土遺物 4
	C区 SD15(南から)		
	C区 SB 5 (南から)		

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

本発掘調査は、石川県土木部道路建築課・県央土木総合事務所が所管する地方道改良事業 一般県道黒川横山線に伴うものである。平成26年2月に石川県教育委員会文化財課(以下、文化財課)が分布調査を行い、調査範囲を確定した。平成27年3月20日付けで文化財保護法第94条に基づく発掘通知が県教育委員会(以下、県教委)宛に提出され、県教委に調査を委託された公益財團法人石川県埋蔵文化財センター(以下、県埋文センター)は、平成27年7月28日付けで発掘調査届を提出し、調査に着手した。

第2節 調査の経過

平成27年7月17日に県央土木事務所、文化財課、埋文センターで現地確認を行った。調査区は標高15m前後の丘陵上に位置し、その西側の丘陵下を当初の事務所用地としたが、9月から道路建設工事用地となるため、調査区東側の丘陵下で地盤改良工事が終了した場所に移転することになった。7月28日の事務所建て上げおよび、丘陵上の調査区へ上の足場階段設置から調査着手とした。7月30日からB区の表土除去作業を行い、8月5日から遺構検出作業、8月26日に事務所を調査区の東側に移転した。B区は小穴が多数検出され、柱穴か木の根跡か非常に判別しづらかったこともあり、想定よりも作業が遅れた。壁溝、灰、柱穴だけが残る堅穴建物、掘立柱建物、区画溝、黒灰を含む土坑、土師器碗を埋納する小穴などを検出した。9月16日に遺構図作成のための空中写真撮影をラジオコントロールヘリコプターで実施し、補足調査を経て、B区の埋め戻しとA区・C区の表土除去作業を行い、9月28日から作業員による掘削作業を開始した。A区は、文化財課の分布調査の際、切壁に堅穴建物の土層断面が確認されており、着手当初、作業の安全面から対応を保留していたが、やはり調査が必要と判断され、防護柵設置、安全帯装着の上で調査を行った。古墳時代後期の堅穴建物の東半を検出した。C区はB区より小穴の密度が少なかったが、掘立柱建物が9棟、柱穴列が3条検出されたほか、南北方向に尾根を区切るような中世の溝が2条検出された。10月16日に空中写真撮影を実施し、10月30日に埋め戻し作業、11月5日に引き渡し、終了確認を行い、調査を終了した。

調査日誌(抄)

7月17日	現地確認・打ち合わせ	9月18日	補足調査
7月28日	事務所建て上げ	9月24日	B区埋め戻し作業
7月30日	B区表土除去作業(~31日)	A-C区	表土除去作業(~25日)
8月4日	器材搬入	9月28日	A-C区遺構検出作業
8月5日	作業員による掘削開始・遺構検出作業	9月30日	遺構掘削作業
8月10日	遺構検出状況撮影 遺構掘削開始	10月16日	B区空中写真測量撮影
8月26日	事務所移転	10月30日	A-C区埋め戻し作業
9月16日	B区空中写真測量撮影	11月5日	引き渡し・終了確認、撤収終了

第2節 調査の経過

調査体制

調査主体 公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター(理事長 木下公司)
総括 柴田政秋(専務理事)
事務 釜親利雄(事務局長)
秘書 長嶋 誠(秘書グループリーダー)
調査 福島正実(所長)
藤田邦雄(調査部長)
担当 松山和彦(県関係調査グループリーダー)
熊谷葉月(県関係調査グループ主幹)
瀧野勝利(県関係調査グループ専門員)

第3節 整理等作業の経過

出土品整理作業は事業者と県教委の協議により平成28年度に実施することとなり、作業を埋文センターが行った。埋文センターでの整理内容、整理体制は下記のとおりである。

整理内容

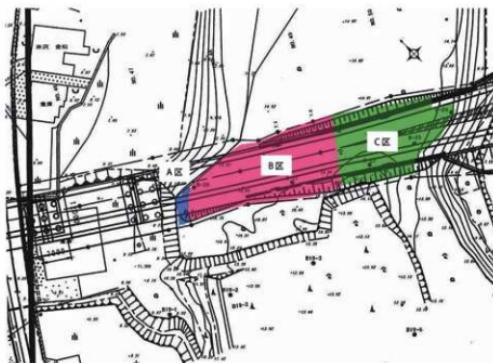
出土遺物の記名・分類・接合、実測、トレイス、遺構図トレイス

整理体制

調査主体 公益財団法人石川県埋蔵文化財センター(理事長 田中新太郎)
総括 柴田政秋(専務理事)
事務 釜親利雄(事務局長)
秘書 長嶋 誠(秘書グループリーダー)
調査 福島正実(所長)
藤田邦雄(調査部長)
担当 特定事業調査グループ



第1図 調査区周辺図 ($S = 1/5,000$)



第2図 調査区配置図 ($S = 1/1,000$)

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

かほく市は石川県のほぼ中央、加賀地方の北端に当り、能登地方との境界に当る。東は宝達山(標高637m)、西は日本海、北に大瀬川、南は河北潟に面する。北は羽咋郡宝達志水町、南は河北郡津幡町、内灘町と接する。日本海に面する海岸側には幅約1.5kmの砂丘地、内陸側は、市内東部を貫流する宇ノ気川と市北部から南下する大瀬川により、沖積地と河岸段丘が形成されている。

本遺跡は、かほく市内中央よりやや南寄り、平成16年の合併以前の旧宇ノ気町域に所在する。宇ノ気川右岸の河岸段丘北部、標高145m付近の低丘陵上に立地している。段丘西側は旧道沿いに宅地化が進んでおり、段丘裾部は切り崩され、遺跡周辺の西側は絶壁状になっている。遺跡東側も宇ノ気川の拡幅および県道8号整備により同様の状況になっている。

第2節 歴史的環境

宇気ボウマワリ遺跡と同じ丘陵の南側には、宇気C遺跡が存在する。弥生時代後期後葉から末期を中心となる集落で、堅穴建物3棟、掘立柱建物6棟が検出されている。緑色凝灰岩の小片が出土する建物跡の存在から玉造りが行われていたとされる。対岸の段丘上北側には詳細は不明であるが、遺物の散在地である宇気B遺跡がある。南西1kmに縄文時代から平安時代までの複合遺跡である宇気塚越遺跡が立地している。縄文草創期の土器が確認されており、周辺では最も古い時代のものとして注目される。宇気塚越遺跡の南西端に当たる宇気塚越1号墳は、古墳時代前期の前方後方墳でこれを中心に5基の古墳が立地している。

南西2kmには弥生時代後期後葉の環濠を持つ高地性集落である鉢伏茶臼山遺跡、その南側の低丘陵上にも鉢伏カクチ遺跡が同時期に営まれている。

本遺跡北東の横山上上野横穴、横山上上野遺跡などが、古墳時代後期の遺跡としてあげられる。

奈良時代から平安時代にかけては、遺跡はあまり見られず、調査例も非常に少ない。

本遺跡名につけられた小字名の「ボウマワリ」は、平安時代末、源平合戦時に、平家の北上を防ぐため、梶原景時の命を受けた土着の武士である坊彌景政が土塁を設けて陣を置いたという伝承に基づいている。ただ、今回の調査も含めて周辺では、この時期の遺跡は現在のところ見つかっていない。

中世山城では鉢伏城跡、茶臼山城跡などが見られる。

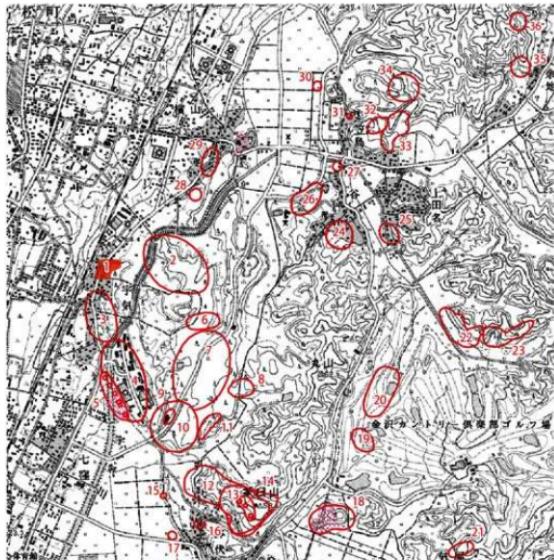
また、石川考古学研究会が行った生産遺跡の分布調査では、奈良時代の鉢伏カマヤタタラ跡、時期不明であるが、宇気ジンドタタラ跡、鉢伏カジヤヤシキ製鉄跡などが製鉄関連の遺跡も報告されている。



第3回 遺跡の位置

参考文献

- 石川県立埋蔵文化財センター 1980 『宇ノ気町鉢伏茶臼山道路発掘調査報告書』
宇ノ気町教育委員会 1983 『七草上野台遺跡』
宇ノ気町教育委員会 1987 『宇ノ気町鉢伏茶臼山道路 - 宇ノ気町上水道第1次試張事業関係 埋蔵文化財発掘調査報告書 -』
宇ノ気町役場 1990 『宇ノ気町史 第二輯』
石川考古学研究会 1993 『石川県内生産道路分布調査報告書』
石川県教育委員会 2002 『石川県中世城館跡調査報告書Ⅰ(加賀Ⅰ・能登Ⅱ)』
かほく市教育委員会 2005 『鉢伏茶臼山遺跡(Ⅱ)』
石川県教育委員会・JR石川県埋蔵文化財センター 2008 『かほく市鉢伏カクチ遺跡』
かほく市教育委員会 2012 『宇氣C遺跡』



- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1 宇氣ボウマワリ道路 (古墳,古代,中世) | 19 鉢伏カマヤタラ跡 (奈良) |
| 2 宇氣B遺跡 (不詳) | 20 鉢伏カマヤチ遺跡 (不詳) |
| 3 宇氣C遺跡 (不詳) | 21 氣屋古墳群 (古墳) |
| 4 宇氣塚越古墳群 (鰐文,赤生,古墳,古代) | 22 上田名尾殿A遺跡 (中世) |
| 5 宇氣塚越古墳群 (古墳) | 23 上田名尾殿B遺跡 (中世) |
| 6 宇氣ジンドタラ跡 (不詳) | 24 谷どのむね遺跡 (弥生,古墳) |
| 7 鉢伏跡 (古墳) | 25 谷古墳群 (古墳) |
| 8 鉢伏カジヤシキ製鉄跡 (不詳) | 26 谷長割遺跡 (古墳,古代) |
| 9 七蓬上野台遺跡 (赤生,古墳) | 27 谷龜田神社古墳 (古墳) |
| 10 鉢伏城跡 (不詳) | 28 横山中上野櫛穴 (古墳) |
| 11 鉢伏フルヤシキ遺跡 (中世) | 29 横山中上野遺跡 (古墳,古代) |
| 12 鉢伏茶臼山遺跡 (赤生) | 30 笠島丸山古墳 (古墳) |
| 13 茶臼山城跡 (中世) | 31 笠島横穴 (古墳) |
| 14 鉢伏茶臼山墳墓群 (赤生) | 32 笠島大岩溝中世墓 (中世) |
| 15 鉢伏古墳 (古墳) | 33 上田名道溝寺跡 (安土桃山) |
| 16 鉢伏カクチ遺跡 (赤生) | 34 笠島遺跡 (鰐文) |
| 17 鉢伏西屋遺跡 (古代) | 35 余地横穴 (古墳) |
| 18 氣屋遺跡 (鰐文) | 36 余地経塚 (中世) |

第4図 周辺遺跡分布図(S=1/250,000)

第3章 遺構と遺物

第1節 概要

調査区は標高14.5m付近の丘陵上で、昭和20年代の米軍航空写真では、畠地となっており、調査で検出した区画溝がすでに存在していた。その後、植林もされていたようで、小穴は樹木の抜痕との判別が困難なほど多くみられた。事前の分布調査で西側の切り壁に確認されていたA区SI 1、B区で壁溝が半周残るSI 2、炉床と主柱穴のみ検出したSI 3の堅穴建物3棟、古代の掘立柱建物5基、古墳時代か古代の溝2条、覆土に焼土や炭化物を多く含む土坑4基、中世の掘立柱建物2基、中世の堀3基、中世の溝2条などを検出した。

調査区南側に、長さ11m、高さ25mの土盛が存在し、坊廻氏の土塁の伝承との関連の確認のため、現表土を落とし、土層を観察したところ、調査区の遺構検出面の高さから約30cmの厚さの旧表土の堆積とビニル片の混入を確認した。その上にのる堆積層も叩き締めなど地業を行っておらず、盛り上げたのみの状況であることから、近現代の畠などの造成時のものであると判断した。

以下、遺物の記述括弧内は遺物報告番号である。

第2節 遺構と遺物

A区

SI 1(第7図) 調査区西端に位置し、西側半分を削平されている。検出面からの深さは45cm、幅10~15cm、深さ4cmの浅く細い壁溝が南東部にみとめられる。南壁際付近に径90cm、床面からの深さ60cmの貯蔵穴を持つ。貯蔵穴の周りに10cm程度の段があり、この範囲に貼られた第7図IVa層、厚さ10~15cmが固くしまっている。建物全体の貼り床は認識できなかったが、地山質で炭化物を含むIVb層も可能性がある。

園化した遺物は1~16が北半、17~36が南半出土である。須恵器壺10点(4~6、15、20、21、28)、須恵器大甕口縁部1点(10)、土師器内黒挽3点(2、12、14)、瓶2点(16、18)、甕12点(3、7、9、17、22、25、27、31、32、34、35)、鍋1点(1)、小型土器4点(13、29、30、33)、土師器器台・高杯3点(11、19、24)、赤彩の壺1点(8)、叩石(36)がある。床面近くで出土したもののはほとんど見られず、埋土のものである。6世紀前半の須恵器杯身が出土しており、古墳時代後期に属すると思われる。

SD20(第7図) 幅15cm深さ10cm南北方向の浅く細い溝である。SI 1を切り込んでおり、出土遺物がなく、時期は不明である。

B区

SK 1(第22図) 南半が調査区外になるが、方形の浅い落ち込み状で、東西辺39m、南北の残存長は25m、深さ10cmである。中央に焼土が集中する箇所があり、覆土に細かい焼土塊、炭化物粒などが混じる。堅穴建物の可能性もあるが、柱穴が確認できなかった。遺物は37~46、須恵器壺身3点(39、42、45)、土師器高杯・器台4点(37、40、41、43)、小型甕2点(38、44)、甕1点(46)が出土している。P11(第12図) 径25cm、深さ25cm 土器埋納小穴である。底部糸切りの土師器碗2点(50、51)が上向きで置かれていた。9世紀後半に属する。SB 2の地鎮に伴うものか。

SB 1 (第10図) 梁行3間、桁行5間の掘立柱建物である。1間の長さが梁間12m、桁間1.5mと桁間が短い。時期を示す遺物がないが、古墳時代か古代であろう。

SB 2 (第12図) P320、P54、P55、P58、P481、P482

梁行き2間、桁行2間の掘立柱建物である。南西角のP18はSK 1より後になる。P11との関係から古代と考える。

SB 3 (第13図) 梁行3間、桁行4間の掘立柱建物か、柱が軸からかなりずれた総柱建物の可能性がある。

50、51の土師器碗が出土している。いずれも底部回転糸切りで、51は、外面に黒斑が見られる。

SB 4 (第17図) 梁行2間、桁行4間以上。

SI 2 (第8図) 幅15cm、深さ5cmの壁溝のみが残る竪穴建物である。西側が失われているが、東西方向が長い楕円形のプランのようである。周辺に深い小穴が多く主柱穴は、調査中には確認できなかつた。整理時の検討で、P256、P162、P384、P316の4つの小穴について可能性があると考えたが断定はできない。

SI 3 (第9図) 壁および床面が削平された竪穴建物の可能性が考えられる。P19、P136、P154、P460を主柱穴とし、中央付近に炉(P21)の痕跡が残る。

SX 1 長軸430cm、短軸310cm、平面不定形で、全般的に浅いが、深さは一定でなく、柱穴か木の抜痕の深い箇所がある。

SK 2 (第23図) 長軸80cm、短軸60cm、深さ20cm、平面楕円形で、覆土に炭化物の層、細かな焼土塊を含む層からなる。近現代の区画溝に切られる。

SK 3 (第23図) 長軸90cm、短軸54cm、深さ15cm、平面楕円形で、上層の覆土に炭化物を含む。

SK 4 (第23図) 長軸110cm、短軸60cm、深さ25cm、平面楕円形で、1層は炭化物の多い黒褐色土層、2層焼土塊を含み、その下層にも細かい焼土、炭化物が含まれる。

SK 8 (第23図) 長軸160cm、短軸68cm、深さ8cmの平面楕円形の非常に浅い土坑。土師器皿把手1点(47)が出土している。

SD 1 (第21図) 幅深さ35cm、深さ10cm、東西方向の溝。

SD 2 (第21図) 幅25cm、深さ15cmの溝。SK 2に切られる。細長い土坑の可能性もある。

SD 3 (第21図) 須恵器縹(48)が出土している。

SD 4 (第21図) 幅35cm、深さ20cmの溝。須恵器杯片が出土しており、古墳時代後期に属する。

SD 5 (第21図) 幅100cm、深さ25cm、調査区南縁を東西に通る溝。遺物は須恵器しか出土していないが、近現代の区画溝に接続するものかもしれない。区画溝より幅が狭く、箱掘り状である。

C区

SB 6 (第19図) 梁行2間以上、桁行3間以上の掘立柱建物。建物北西隅のみ検出。

SB 7 (第19図) 梁行2間以上、桁行3間以上の掘立柱建物。建物北西隅のみ検出。SB 6と建て替え関係にあるが、先後は不明。

SB 8 (第20図) 梁行2間、桁行3間の掘立柱建物。

SD13(第21図) 幅25cm、深さ15cm。調査区東端で検出。北側は底が2手に分かれており、西側が掘り直しされた可能性がある。

SD14(第21図) 幅280cm、深さ15cmの溝。青磁碗(78)、白磁皿底部(79)が出土している。15世紀に属する。

SD15(第21図) 幅20cm、深さ15cm、東側をSD14に切られる。弥生時代末～古墳時代初めの土師器片

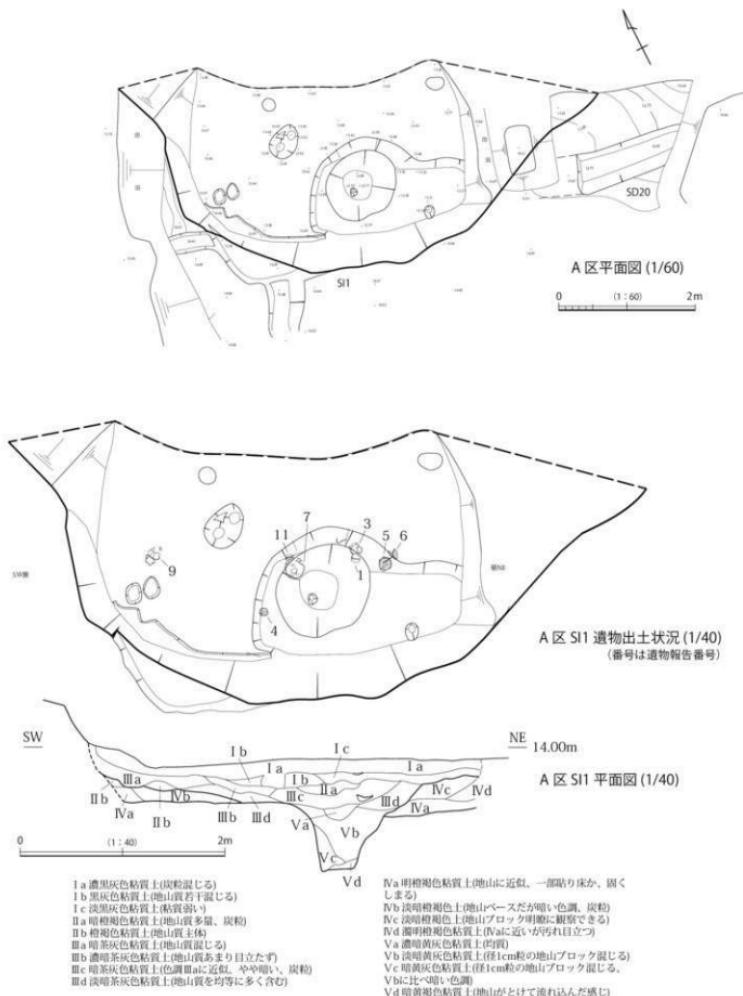


第5図 全体平面図①(S=1/200)

第2節 遺構と遺物

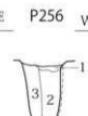
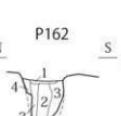
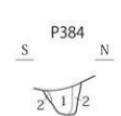


第6図 全体平面図②(S = 1 /200)



第7図 A区SI1 (S=1/60, 1/40)

第2節 遺構と遺物

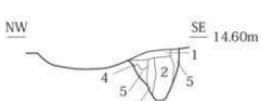


1 10YR3/3 喀斯特土
(炭化物粒子多く含む)
2 10YR4/3 ぶい黄褐色土
(2~5cmの大塊山ブロック含む)

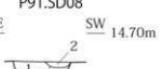
1 10YR3/3 喀斯特土
(炭化物粒子多く含む)
2 10YR3/3 喀斯特土
(0.5cmの大塊山ブロック含む)
3 10YR3/3 喀斯特土
(7.5Y4/6 蓝色土(地山))
4 10YR3/3 喀斯特土
(7.5Y4/6 蓝色土(地山))
5 10YR3/3 喀斯特土
(7.5Y4/6 蓝色土(地山))

1 10YR3/3 喀斯特土
(1~2cm 大の地山ブロック多く含む)
2 10YR3/3 喀斯特土
(5~15cm 大の地山ブロック多く含む)
3 10YR3/4 (5~10cm 大の地山ブロック多く含む)

P93



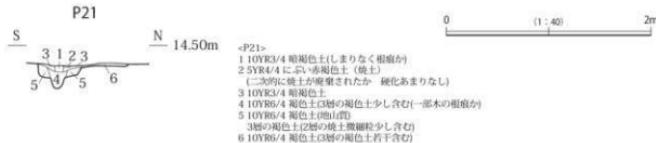
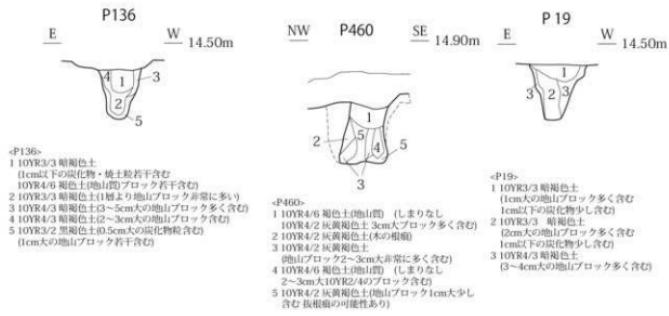
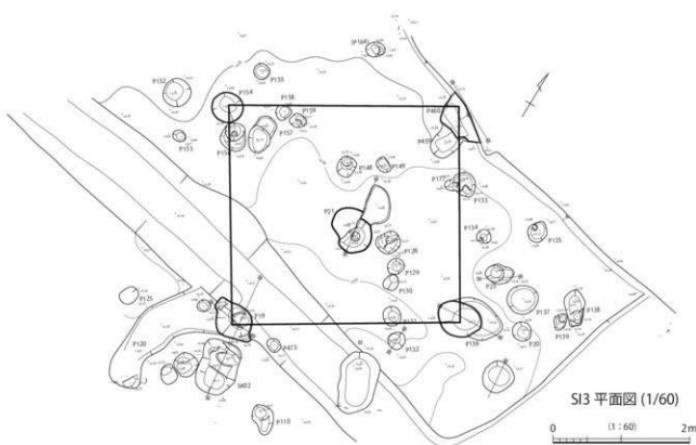
P91.SD08



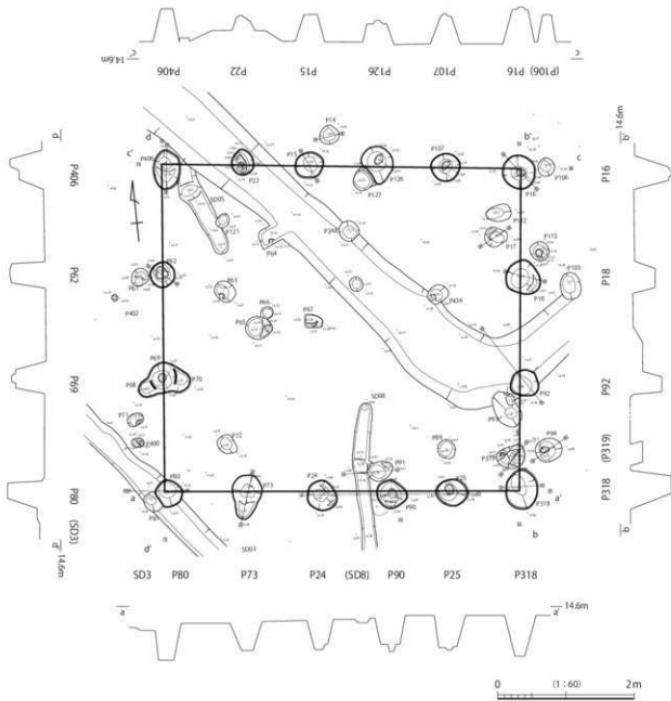
1 10YR3/3 喀斯特土
(1~3cm 大の地山ブロック含む)
2 10YR4/3 ぶい黄褐色土 SD08

0 (1 : 40) 2m

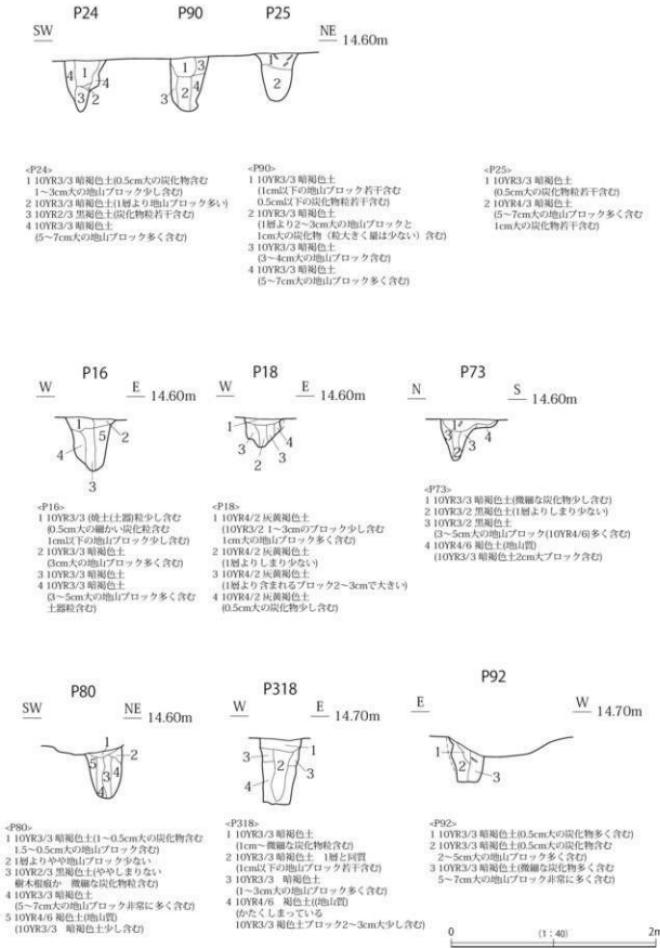
第8図 B区SI 2 (S = 1 / 80, 1 / 40)



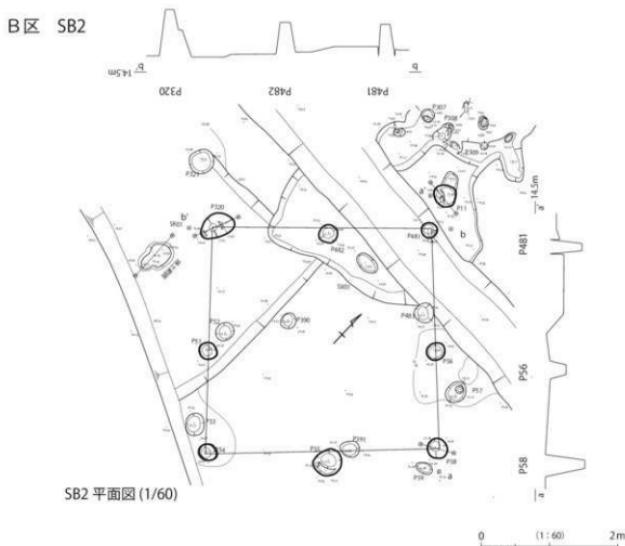
第9図 B区SI 3 (S = 1/60, 1/40)



第10図 B区SB 1 (S = 1 /60)

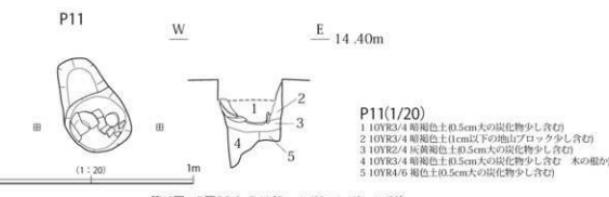


第11図 B区SB1柱穴(S=1/40)

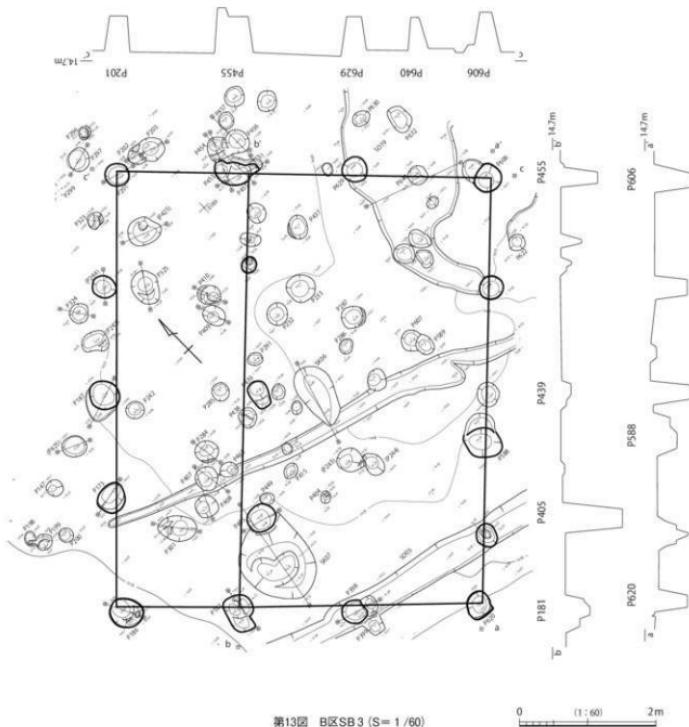


・P320・
1 10YR4/2 灰黄褐色土(ややしまりなし)
2 1層と同質(0.5cm大の炭化物少し含む
1cm程度の地山ブロック多く含む)

<P58>
1 10YR3/3 暗褐色土(1cm大の塊状ブロック少し含む)
2 10YR3/3 暗褐色土(1cm大の塊状ブロック非常に多く含む)



第12図 B区SB2 P11(S=1/60, 1/40, 1/20)



第13図 B区SB3 (S=1/60)

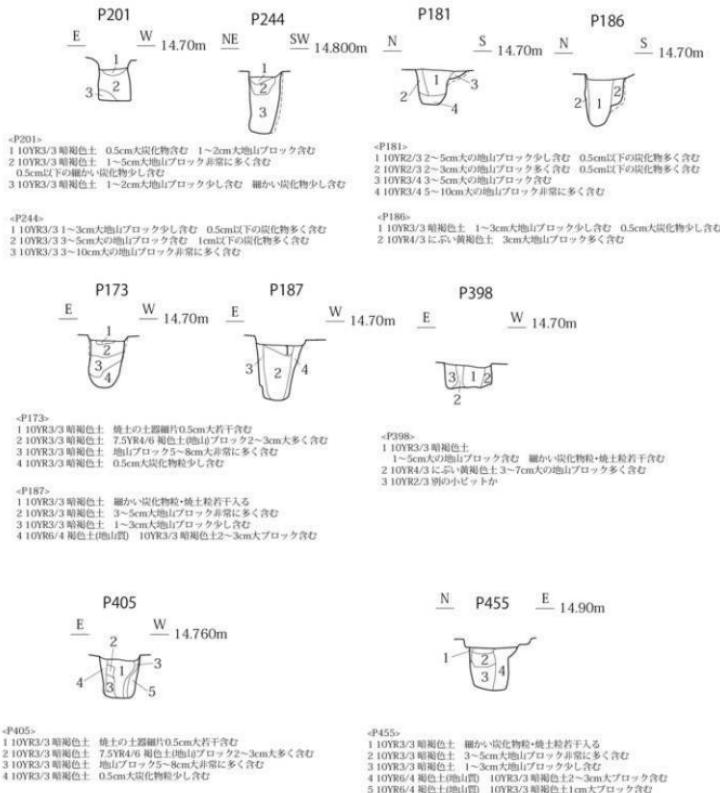
が出土している。削平された土坑の底部の可能性もある。

SD16(第21図) 幅200cm、深さ15cmの溝。SD14と軸、形状が似ており、斜面上に平坦地を造成する際の痕跡かと思われる。

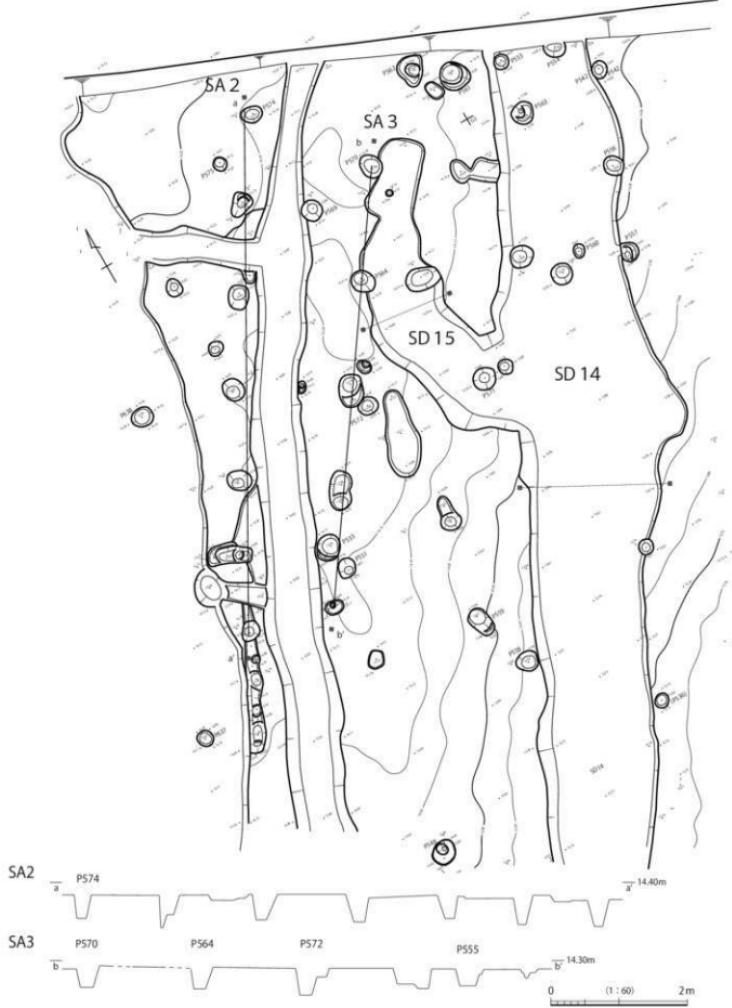
SA 1 (第16図) 東西辺が7.5mで小穴5基、南北辺が8.6mで小穴6基のL状の構である。南北辺は南の5基の柱穴間隔が短いが、北端の小穴との間隔だけが広い。

SA 2 (第15図) 長さ7.7m、小穴7基からなる南北方向の構である。古代の可能性もあるが、C区南側の中世の掘立柱建物群SB 4～7との関連を考えたい。

SA 3 (第15図) 長さ6.5m、小穴5基からなる南北方向の構で、SA 2とはやや軸がずれるが、1～1.5mの距離ではほぼ平行関係にあり、前後関係はわからないが立て替えの可能性が考えられる。

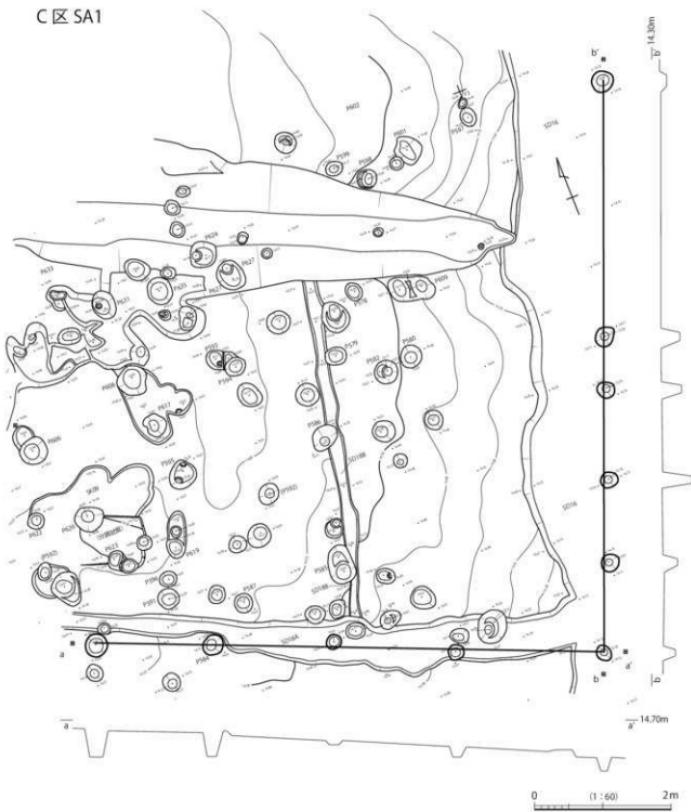


第14図 B区SB 3柱穴(S=1/40)

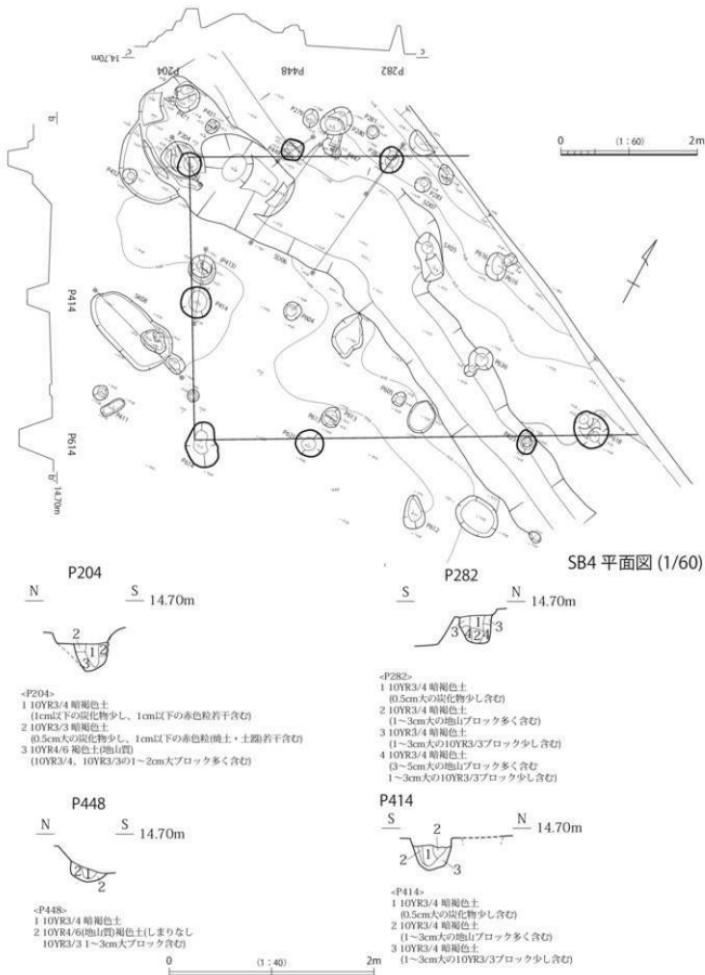


第15図 C区SA2・3、SD14・15(S=1/60)

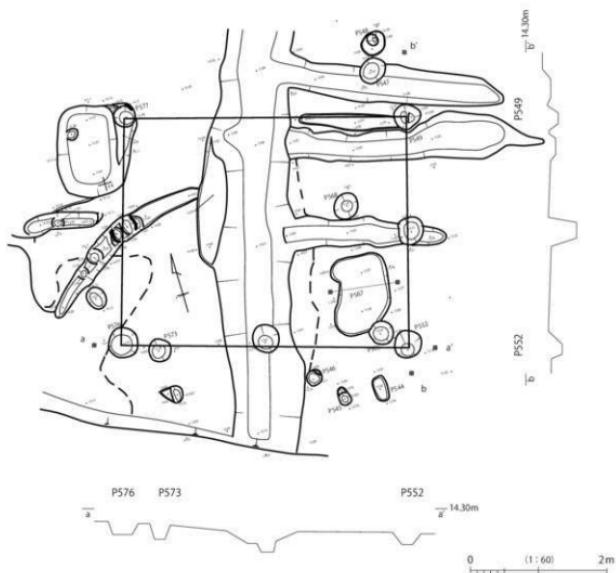
C区 SA1



第16図 C区 SA 1 ($S=1/60$)

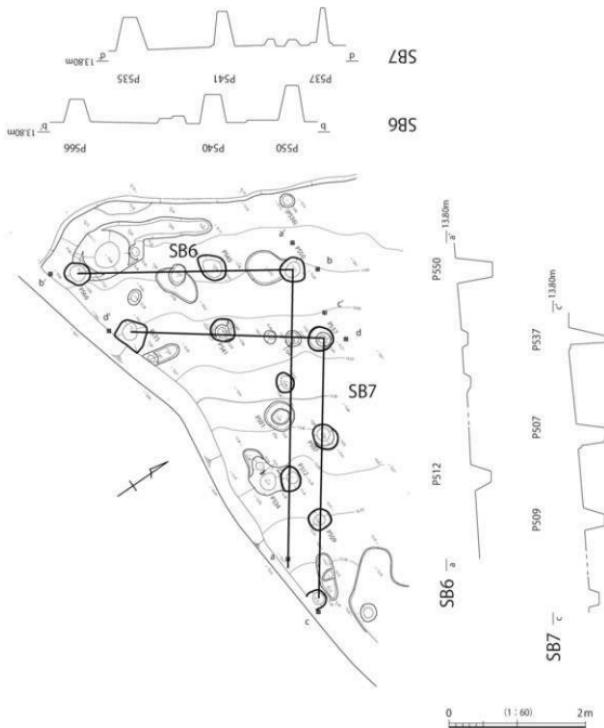


C区 SB5

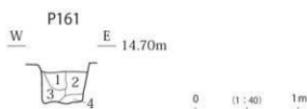
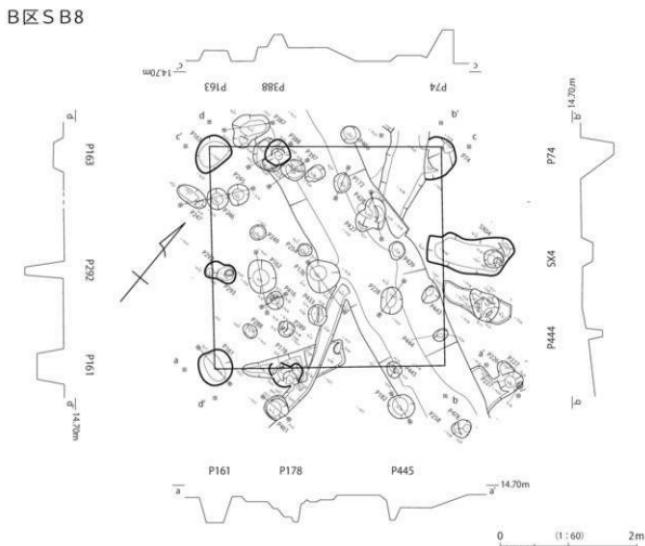


第18図 C区SB5 (S=1/60)

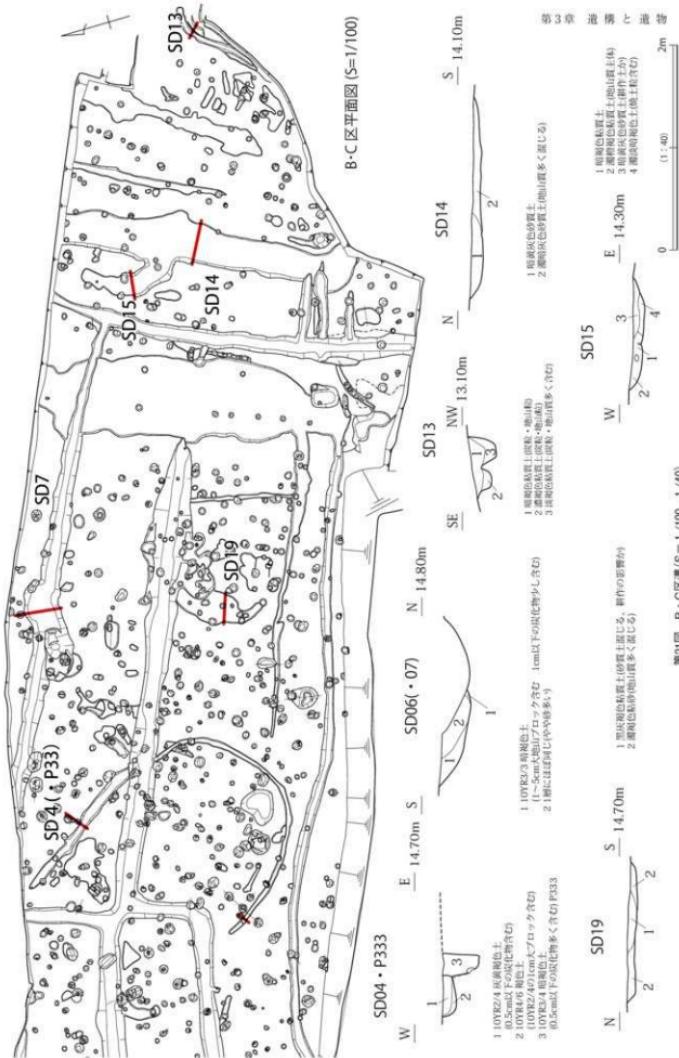
C区

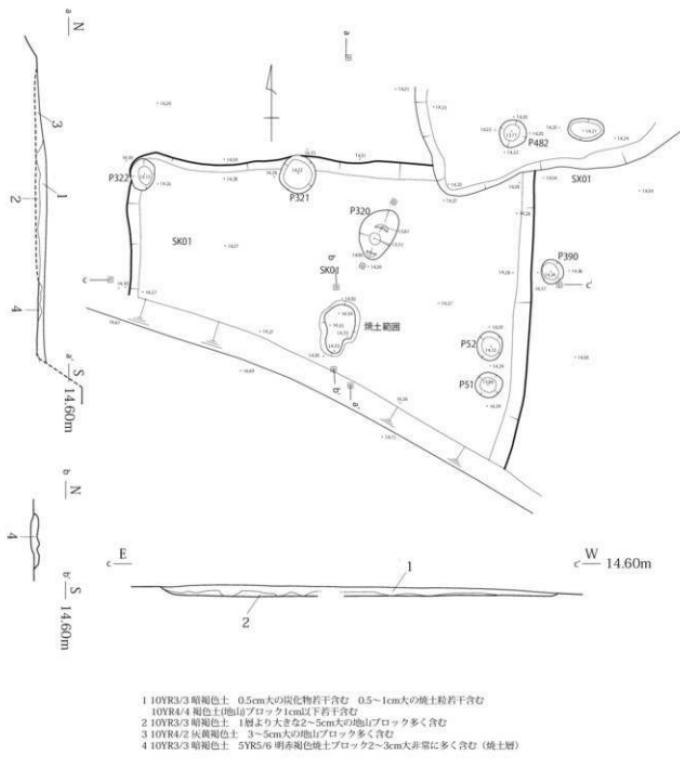


第19図 C区SB6・7 (S=1/60)



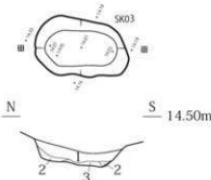
1 10YR3/3 暗褐色土 0.5cm大の炭化物粒含む
 2 10YR3/3 暗褐色土 7.5YR4/6 褐色土ブロック3~5cm多く含む
 3 10YR3/3 暗褐色土 7.5YR4/6 褐色土ブロック3cm少しある
 4 7.5YR4/6 褐色土 10YR7/3 暗褐色土ブロック少しある





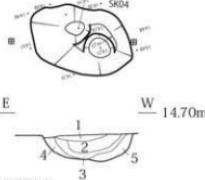
第22図 B区SK01(S=1/60)

SK3(1/40)



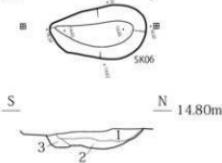
1 10YR3/3 前褐色土
(砂多く含む 1cm未満の地山ブロック含む 0.5~1cm大炭化物含む)
2 7.5YR4/6 褐色土(地山) (層の2cm大ブロック若干含む)
3 7.5YR4/6 (地山) (やくしまりが少ない)

SK4



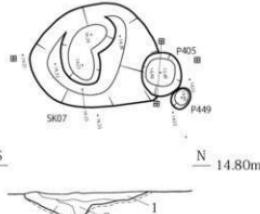
1 10YR2/3 黒褐色土
2 SYR4/8 非褐土(地山ブロック) (3cmの土含む)
3 10YR3/3 前褐色土5mm未満の炭化物・地山土含む
4 10YR4/6 褐色土(地山) (やくしまりが少ない)
5 10YR4/4 褐色土 (10YR4/2) 黄褐色土ブロック3~5cm大少し含む
地土塊5cm大・炭化物約0.5cm大若干含む

SK6



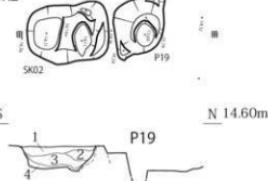
1 10YR3/3 前褐色土 (2cm程度の炭化物若干含む)
2 7.5YR4/6 褐色土(地山) (1層0.5~5cm大ブロック少しある)
3 7.5YR4/6 褐色土(地山) (10YR3/4 前褐色土2cm大ブロック若干含む)

SK7



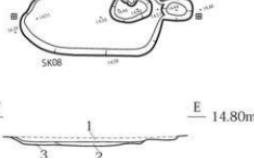
1 10YR5/2 灰黄褐色シルト
2 10YR5/2 灰黄褐色シルト (3cm大)の地山ブロック少しある
3 10YR5/2 灰黄褐色シルト (2cm大)の地山ブロック多く含む

SK2



1 10YR3/3 前褐色土 (1cm以下)の炭化物含む
1cm以下 (10YR4/6 多少含む)
2 10YR3/3 前褐色土 (1cm以下)の炭化物多く含む
0.5cmの大 (10YR6/4) (やく褐色土) 地土塊少しある
3 10YR3/3 前褐色土 (炭化物非常に多く含む 1cmの大の地土)
4 10YR3/3 前褐色土 (3層より炭化物やや少ない)

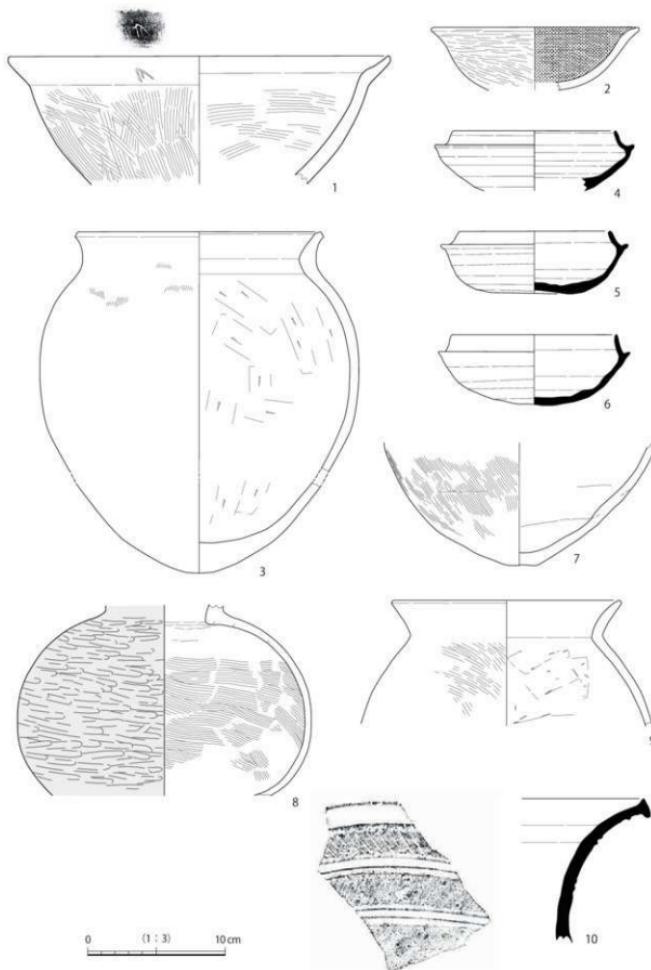
SK8



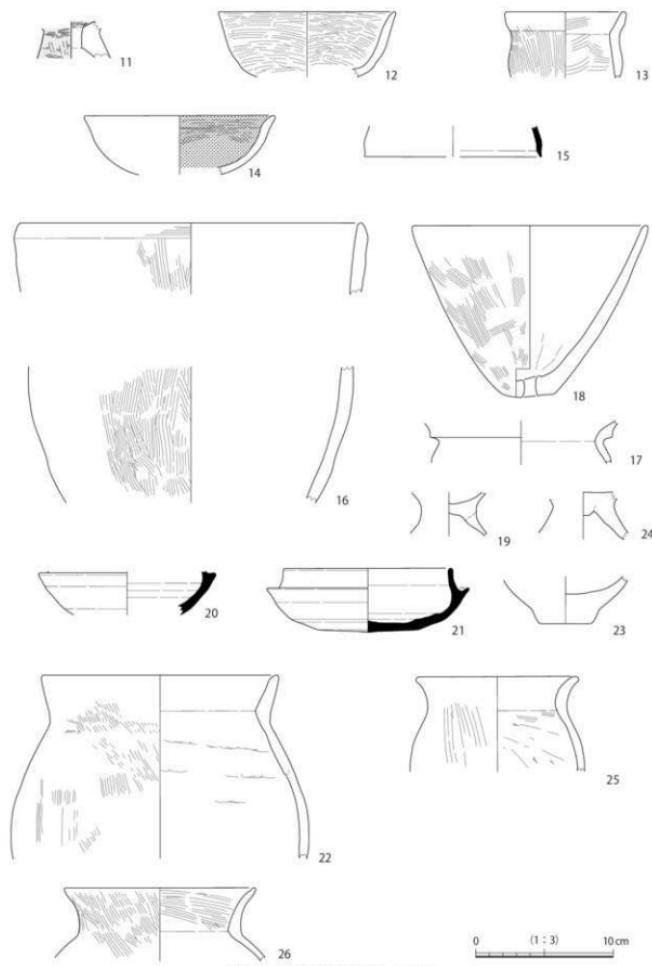
1 10YR4/3 にぶい 黄褐色土 (10YR3/3の1cm大のブロック多く含む)
10YR4/3 褐色土(地山)ブロック少しある 炭化物少しありなし
2 10YR4/3 にぶい 黄褐色土 (10YR3/3) 1cm大のブロック含む
1層より少ない
3 10YR4/6 褐色土(地山) (10YR4/2 1~2cm大ブロック少しある)

0 (1:40) 2m

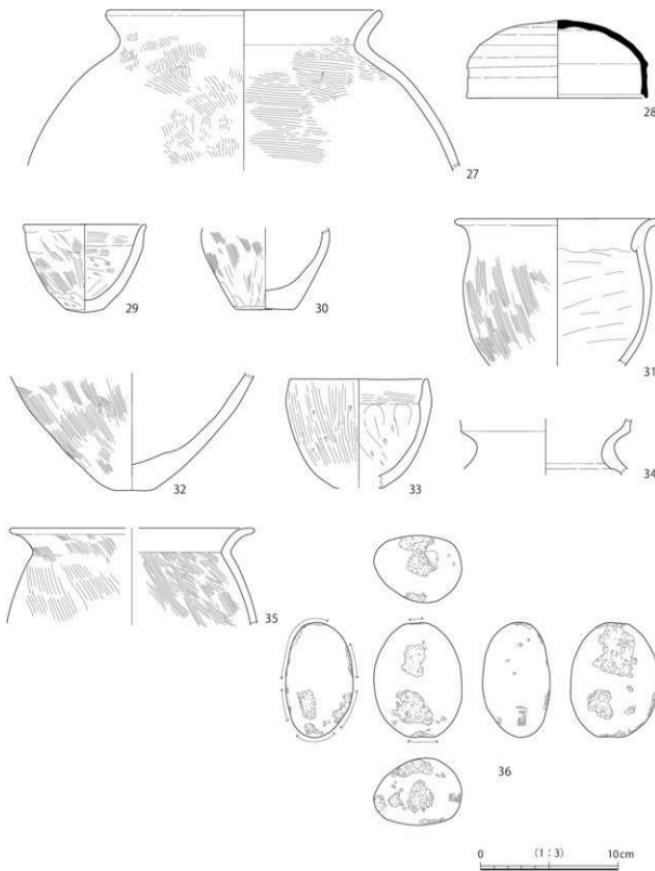
第23図 B区土坑 (S = 1/60)



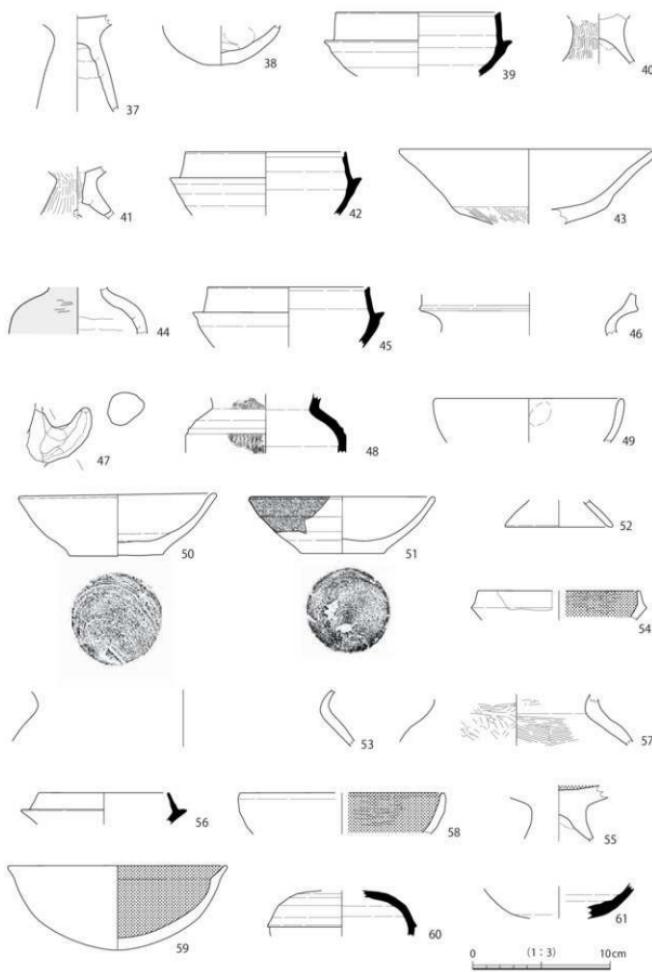
第24図 出土遺物実測図1 (S=1/3)



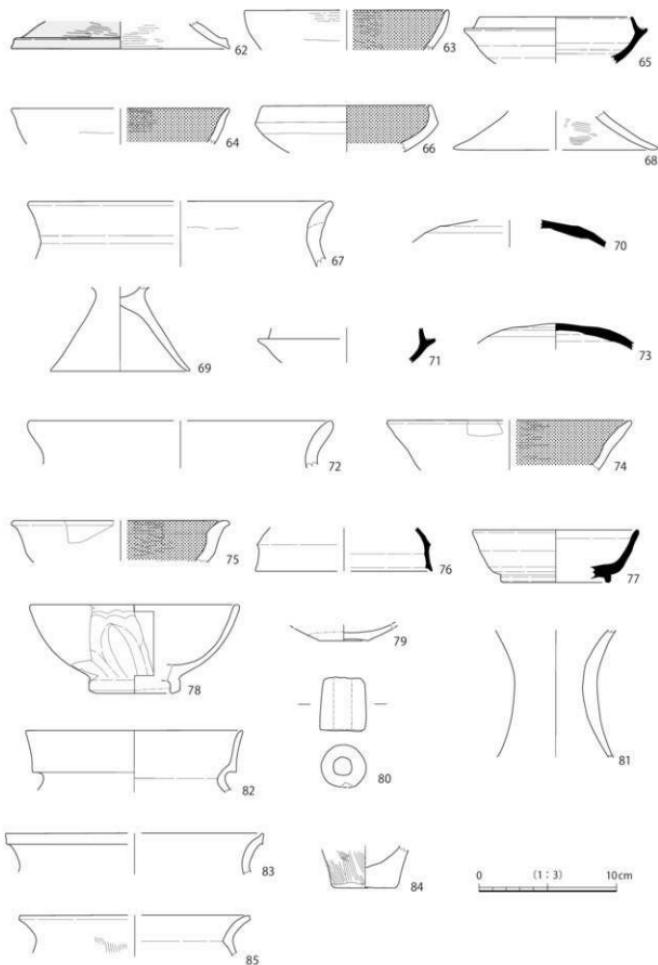
第25図 出土遺物実測図2 (S=1/3)



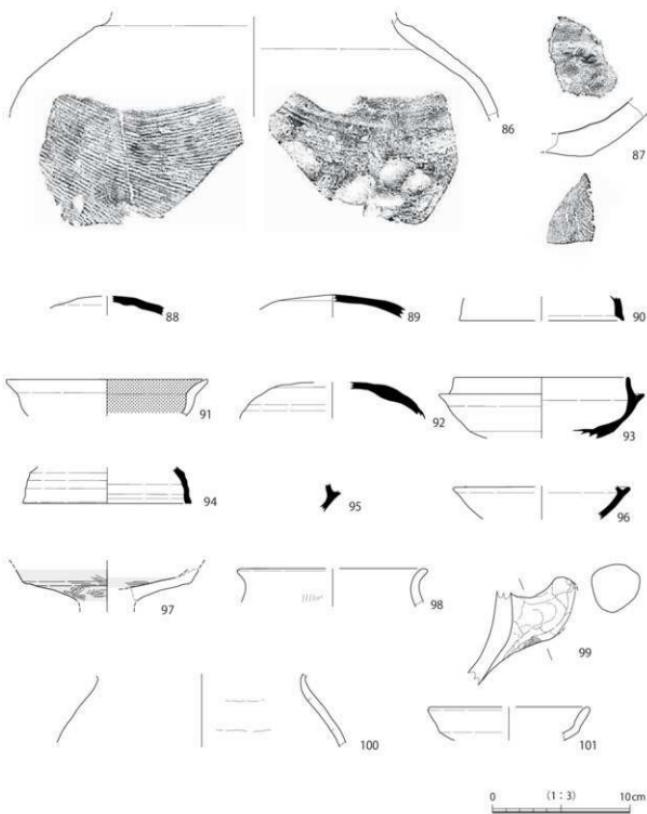
第26図 出土遺物実測図3 (S=1/3)



第27図 出土遺物実測図 4 (S= 1 / 3)



第28図 出土遺物実測図5 (S=1/3)



第29回 出土遺物実測図 6 (S = 1 / 3)

第2節 遺構と遺物

編号	区分	地区	出土場所	埋蔵	品種	口径	高さ	底面	色調	出土	造成	調査	運び方	備考		
1	001	A2H	SH1	上縁部	横	27.7	—	(3.8)	■(2)19864号	横切面	真	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハケ	G1/12	外因侵食帯	
2	0010	A2H	アツヤ下縁部 アツヤ裏面	上縁部	横	15.0	—	(4.8)	■(2)19864号	横切面	真	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ・ハケ	G1/12	内層	
3	0009	A2H	アツヤ下縁部 アツヤ裏面	上縁部	横	17.8	2.0	(17.8) (18.7)	■(2)19864号	横切面	真	ヨコナデ・ハズリ・チ ヨコナデ	ハクダケナ	G1/12 透視写真	外因侵食帯	
4	0002	A2H	SH1	底面	内(2.0)	—	(4.4)	■(2)19851号	横切面	横切面	—	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ナデ	G1/12	外因平済	
5	0001	A2H	SH1	底面	外(4.8)	—	(4.8)	■(2)19851号	横切面	横少・相手多	—	ロクロナデ	ロクロナデ・回転ナデ リヘキサゴンナデ	G1/12	外因平済	
6	0004	A2H	アツヤ下縁部 アツヤ裏面	底面	外(2.0)	12.0	7.0	3.2	■(2)19864号	横切面	真	ヨコナデ・チテナ	ヨコナデ・直角ナデ ヨコナデ	G1/12	外因侵食	
7	0006	A2H	アツヤ下縁部 アツヤ裏面	上縁部	横	—	27	(3.8)	■(2)19841号	横切面	横少・相手多 相手少	斜め裏面に調査不可	ハケ	直(2)/12	外因侵食・解剖	
8	0020	A2H	アツヤ下縁部 アツヤ裏面	上縁部	横	—	—	(4.8)	■(2)19851号	横切面	真	ナデ・ハセ	エヌキ	—	外因赤面・復元	
9	0013	A2H	SH1	底面	上縁部	16.4	—	(8.2)	■(2)19864号	横切面	真	ナデ・チテナ	ヨコナデ・ハケ	1/12	外因侵食	
10	0003	A2H	SH1	底面	横	—	(16.6)	■(2)19864号	横切面	真	ロクロナデ	ロクロナデ・直角文	—	—		
11	0012	A2H	SH1	底面	横	—	(2.7)	■(2)19864号	横切面	真	エヌキ	エヌキ	—	—		
12	0018	A2H	SH1	底面	内(2.0)	12.8	—	(4.8)	■(2)19864号	横切面	真	ハケ	ヨコナデ・ハセ	G1/12	内層	
13	0071	A2H	SH1	底面	内(2.0)	8.8	—	(4.8)	■(2)19864号	横切面	真	ハケ	ヨコナデ・ハセ	G1/12	内層	
14	0072	A2H	SH1	底面	内(2.0)	13.8	—	(4.8)	■(2)19864号	横切面	真	エヌキ	エヌキ	G1/12	内・外因侵食	
15	0073	A2H	SH1	底面	外(2.0)	—	(2.3)	■(2)19851号	横切面	横少	—	ロクロナデ	ロクロナデ	G1/12	—	
16	0008	A2H	SH1	底面	上縁部	25.0	—	(3.8)	■(2)19864号	横切面	横少・相手多	斜め裏面に調査不可	ハケ	G1/12	内因侵食	
17	0074	A2H	SH1	底面	横	—	(2.2)	■(2)19864号	横切面	横少	斜め裏面に調査不可	ヨナデ	—	外因侵食		
18	0008	A2H	アツヤ下縁部	底面	横	17.0	3.8	12.6	■(2)19864号	横切面	横少	ナデ	ナデ	G1/12	内因侵食	
19	0019	A2H	アツヤ下縁部	底面	横	—	(3.5)	■(2)19864号	横切面	横少・相手多	—	ヨコナデ	ヨコナデ	G1/12	内・外因侵食	
20	0077	A2H	アツヤ裏面	底面	横	17.5	—	(3.2)	■(2)19864号	横切面	横少・相手多	—	ロクロナデ	ロクロナデ・直角文	G1/12	内・外因侵食
21	0007	A2H	アツヤ下縁部	底面	横	12.2	7.4	4.7	■(2)19871号	横切面	横少	ナデ	ヨコナデ	ヨコナデ・直角ナデ	G1/12	内・外因侵食
22	0011	A2H	アツヤ下縁部	上縁部	横	17.2	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	真	ヨコナデ	ヨコナデ	3/12	外因侵食	
23	0003	A2H	アツヤ下縁部	上縁部	横	—	(4.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	斜め裏面に調査不可	ヨナデ	—	内因侵食		
24	0094	A2H	アツヤ下縁部	上縁部	横	—	(3.5)	■(2)19864号	底面裏面	横少	斜め裏面に調査不可	ヨナデ	—	内因侵食		
25	0077	A2H	アツヤ下縁部	上縁部	横	—	(3.0)	■(2)19864号	底面裏面	横少・相手多	—	ヨコナデ	ヨコナデ	G1/12	内・外因侵食	
26	0090	A2H	アツヤ下縁部	上縁部	横	13.8	—	(5.4)	■(2)19864号	底面裏面	真	ハナ・ナデ	ハナ・ナデ	G1/12	外因侵食	
27	0018	A2H	アツヤ下縁部	上縁部	横	16.9	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	真	ヨコナデ・ハセ	ヨコナデ・ハセ	G1/12	外因侵食	
28	0005	A2H	アツヤ下縁部	底面	横	8.8	2.8	6.5	■(2)19864号	底面裏面	横少・相手多	ナデ・カゲ	ナデ・カゲ	G1/12	内・外因侵食	
29	0016	A2H	アツヤ下縁部	底面	横	—	4.2	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ハナ・ナデ	ハナ・ナデ	G1/12	内・外因侵食	
30	0079	A2H	アツヤ下縁部	底面	横	14.5	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	透視写真	外因侵食	
31	0044	A2H	アツヤ下縁部	底面	横	2.5	16.0	■(2)19864号	底面裏面	横少	ヨコナデ	ヨコナデ	G1/12	内・外因侵食		
32	0013	A2H	アツヤ下縁部	底面	横	9.8	3.4	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ハナ・ナデ	ハナ・ナデ	G1/12	内・外因侵食	
33	0081	A2H	アツヤ上縁部	底面	横	—	(4.3)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ヨコナデ	ヨコナデ	小片	外因侵食		
34	0078	A2H	アツヤ上縁部	底面	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ヨコナデ	ヨコナデ	G1/12	内・外因侵食		
35	0076	A2H	アツヤ上縁部	底面	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ヨコナデ	ヨコナデ	G1/12	内・外因侵食		
36	0081	A2H	アツヤ下縁部	石	大・丸石	最大(2.4)	6.0	4.9	—	—	—	—	—	基盤3/10	—	
37	0044	A2H	アツヤ下縁部	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ヨコナデ	ヨコナデ	小片	望遠鏡用		
38	0054	A2H	SH1-10	土縁部	横	—	(2.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
39	0050	A2H	SH1-11	土縁部	横	12.0	—	(4.7)	■(2)19871号	底面裏面	横少・相手少	ヨコナデ	ヨコナデ	透視写真	外因侵食	
40	0065	A2H	SH1-12	土縁部	横	—	(3.7)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	内層		
41	0029	A2H	SH1-26	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	エヌキ・ナデ	エヌキ	—	—		
42	0031	A2H	SH1-5	土縁部	横	—	(3.7)	■(2)19864号	底面裏面	横少・相手多	ロクロナデ	ロクロナデ	1/12	外因侵食		
43	0035	A2H	SH1-10	土縁部	横	14.8	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少・相手多	ヨコナデ	ヨコナデ	内・外因侵食	外因侵食	
44	0042	A2H	SH1-14	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	内・外因侵食		
45	0077	A2H	SH1-15	土縁部	横	11.8	—	(4.4)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ロクロナデ	ロクロナデ	3/12	—	
46	0056	A2H	SH1-18	土縁部	横	—	(3.2)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ヨコナデ	ヨコナデ	小片	内・外因侵食		
47	0028	A2H	SH1-20	土縁部	横	—	(4.7)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
48	0052	A2H	SH1-22	土縁部	横	—	(4.7)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ヨコナデ	ヨコナデ	透視写真	内・外因侵食		
49	0053	A2H	SH1-23	土縁部	横	—	(3.2)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ヨコナデ	ヨコナデ	透視写真	内・外因侵食		
50	0055	A2H	SH1-24	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
51	0057	A2H	SH1-25	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
52	0058	A2H	SH1-26	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
53	0059	A2H	SH1-27	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
54	0060	A2H	SH1-28	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
55	0061	A2H	SH1-29	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
56	0062	A2H	SH1-30	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
57	0063	A2H	SH1-31	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
58	0064	A2H	SH1-32	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
59	0065	A2H	SH1-33	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
60	0066	A2H	SH1-34	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
61	0067	A2H	SH1-35	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
62	0068	A2H	SH1-36	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
63	0069	A2H	SH1-37	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
64	0070	A2H	SH1-38	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
65	0071	A2H	SH1-39	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
66	0072	A2H	SH1-40	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
67	0073	A2H	SH1-41	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
68	0074	A2H	SH1-42	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
69	0075	A2H	SH1-43	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
70	0076	A2H	SH1-44	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
71	0077	A2H	SH1-45	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
72	0078	A2H	SH1-46	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
73	0079	A2H	SH1-47	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
74	0080	A2H	SH1-48	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
75	0081	A2H	SH1-49	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
76	0082	A2H	SH1-50	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
77	0083	A2H	SH1-51	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
78	0084	A2H	SH1-52	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
79	0085	A2H	SH1-53	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
80	0086	A2H	SH1-54	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
81	0087	A2H	SH1-55	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
82	0088	A2H	SH1-56	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
83	0089	A2H	SH1-57	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
84	0090	A2H	SH1-58	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
85	0091	A2H	SH1-59	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
86	0092	A2H	SH1-60	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
87	0093	A2H	SH1-61	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
88	0094	A2H	SH1-62	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
89	0095	A2H	SH1-63	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)19864号	底面裏面	横少	ナデ	ナデ	—	—		
90	0096	A2H	SH1-64	土縁部	横	—	(3.8)	■(2)1								

第2表 遺物體察表②

第3節 総括

宇気ボウマワリ遺跡は、第30図に示したように古墳時代後期、古代(平安時代中期)、中世(室町時代)と変遷する。全体を通して、遺物の量はあまり多くなく、断続的に集落が消長する。古墳時代後期に堅穴建物を主体とする集落が現れるが、7~8世紀には明確な痕跡がなく、10世紀に掘立柱建物が数棟見られる。遺跡名の元となった小字名は12世紀後半の伝承からであるが、この間を含む11世紀から13世紀までの遺構、遺物は見いだすことはできない。その後の15世紀代に尾根筋を開削し、平坦面を造成し、掘立柱建物を建てたなど土地利用の様相が見られる。近世・近代の痕跡は見られないが、昭和20年代の米軍航空写真に調査前と同じ地割りが見られることから畠地あるいは植林地として利用されていた。

本調査区を挟んで東西の丘陵端部は消滅しているが、集落はもう少し広がっていたものと考えられる。南北に関しては、丘陵は南北に延びるが、現況では本調査区が最も標高が高い地点で、両側に浅い谷が入るため、集落の境界になると見られる。



第30図 遺構変遷図 (S=1/600)

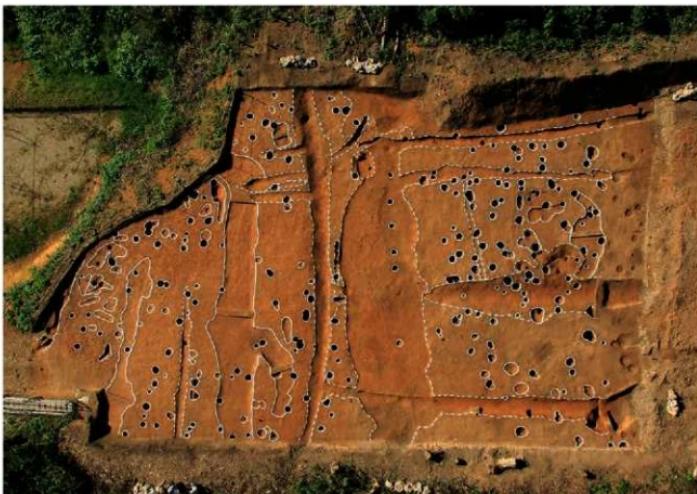


調査区全景(モザイク合成)

図版 2



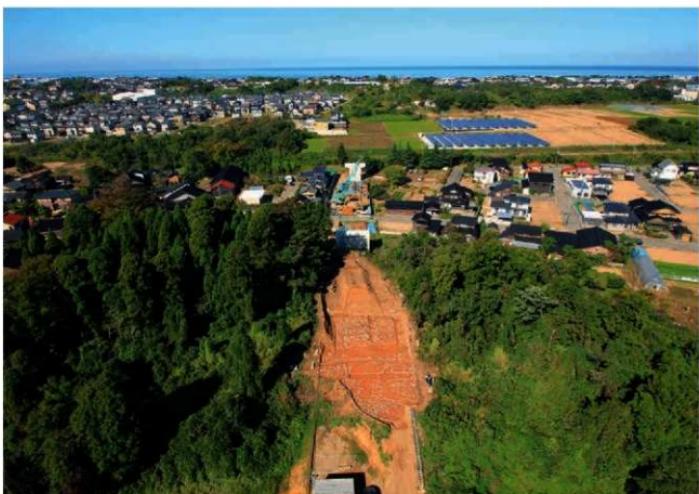
B区 全景(上が南)



C区 全景(上が南)



B区 遠景(西から)



C区 遠景(東から)

図版 4



A区 SI 1 (東から)



A区 SI 1 遺物出土状況



A区 SI 1 遺物出土状況(東北から)



A区 SI 1 完掘状況(南から)



A区 SI 1 内貯藏穴完掘状況(東から)



B区 SB 1 (南西から)



B区 SB 4 (南西から)

図版 6



B区 SI2 (東南から)



B区 SD8 (SI2) (北西から)



B区 SD8 (SI2) (北西から)



B区 SD8 (SI2) (南から)



B区 SI2 作業状況(南から)



B区 掘削終了(南西から)



B区 掘削終了(南東から)



B区 SK 1(東から)



B区 SK 1(西から)



B区 SK 1遺物出土状況(東から)



B区 SK 1(南から)



B区 SK 1焼土棲出状況(南から)



B区 SK 1焼土断ち割り状況(西から)

図版 8



B区 SK 2 断面(東から)



B区 SK 2 炭化物層(東から)



B区 SK 2 完掘状況(東から)



B区 SK 3 断面(南西から)



B区 SK 4 断面(北から)



B区 SK 4 焼土棲出状況(北から)



B区 SK 4 完掘状況(北から)



B区 SK 5 断面(東から)



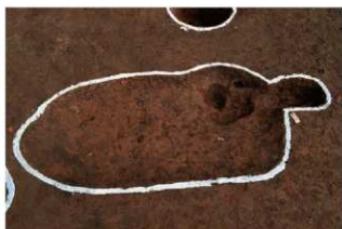
B区 SK 6 (東から)



B区 SK 7 (東から)



B区 SK 8 (南から)



B区 SK 8 (南から)



B区 SX 1 北アゼ(北から)



B区 SX 1 南アゼ(北から)



B区 SX 1 (北から)



B区 SX 3 (西から)

図版10



B区 SD 3(西から)



B区 SD10(西から)



B区 SD 4(西から)



B区 SD 4、P333(北西から)



B区 SD 6・7(東から)



B区 P19(SI 3柱穴 北から)



B区 P136(SI 3柱穴 北から)



B区 P21焼土断面(SI 3炉 東から)



B区 P11遺物出土状況(南から)



B区 P318(SB1 東から)



B区 P406(SB1 西から)



C区 SD14(南から)



C区 SD15(南から)



C区 SD19(南から)



C区 SB 5 (南から)



C区 SB 8 (北から)

図版12



C区 挖削終了(南から)



C区 挖削終了(西から)



C区 SD13(北から)



C区 SD13(北から)



C区 SD14(北から)



C区 SD15(北から)

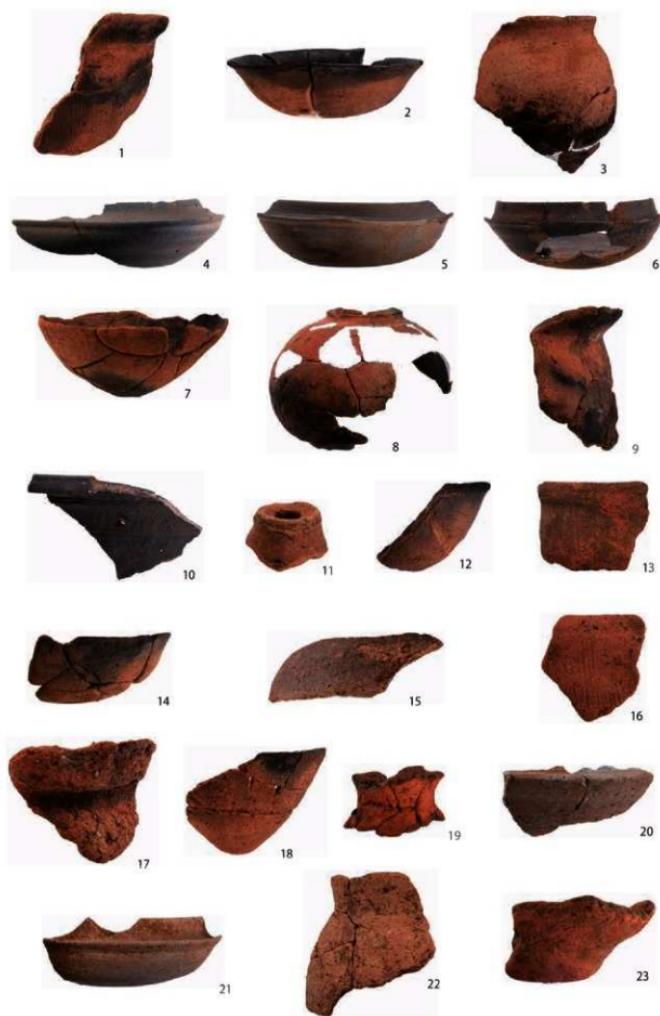


C区 P567(北から)



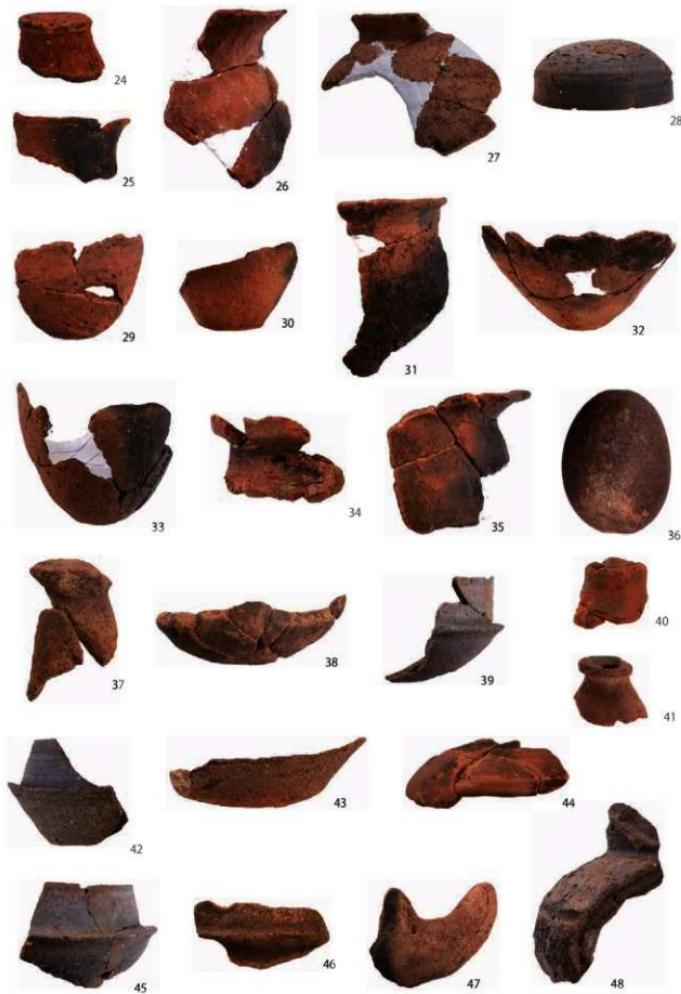
C区 SD19(南から)

図版13



出土遺物 1

图版14



出土遗物 2



图版16



出土遗物 4

報告書抄録

かほく市 宇気ボウマワリ遺跡

発行日 平成31(2019)年3月22日

発行者 石川県教育委員会

〒920-8575 石川県金沢市輪月1丁目1番地

電話 (06)-225-1842(文化財課)

(公財)石川県埋蔵文化財センター

〒920-1336 石川県金沢市中ノ町18番地1

電話 (06)-229-4477

E-mail daihyou@ishikawa-mabun.or.jp

印 刷 田中昭文堂印刷株式会社